

令和元年9月2日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

それでは、ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。
先ほどご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。
本日の話題は3件ですので、市長、さっそくお願いいたします。

【市長】

はい、どうぞよろしくお願ひいたします。

週末ヘルシンキから戻ってまいりました。やっぱり暑いですね、静岡市は。驚いたことに、ご存知のとおりMaaSの視察に行ってきたんですけれども、帰ってきた翌日の日本経済新聞、今日、来ているのかな、一面でどかーんと日本経済新聞の記者、今日います？うん、知ってる？知ってた？土曜日、1面トップでMaaSについて、どーんと現状と課題をとってもコンパクトにまとめた良い記事が載っていたんですけど、「MaaS拡大、動けぬ日本とフィンランドなど規制緩和で世界の先頭に」という見出しなんですけどもね。まさにそれを私、現場で体感してきたんですよ。

ぜひ、これ静岡市がこのMaaSのことについては、日本の自治体の中で先頭に行っているということで、また、日経、これ一面出したんだったら、これ、静岡新聞からどーんと出してもらえればね、すごくアピールになると思います。それで、ぜひ参考にさせていただきたいなということをお願いいたします。

日本の自治体から、ずいぶん関係者がフィンランド・ヘルシンキがMaaSの先進都市だということで行っているということなんですけども、官民連携でステークホルダーの静鉄さんやタクシー事業者さんや、あるいは研究者、あるいは議会も含めて一緒に行ってきたというのが、すごくインパクトがあって、五月雨式に来るのではなくて、自治体としての熱意を訴えることができたということは、とても先方のフィンランドの関係機関の方々も強い印象を持ってくれたようで、たいへん有意義な視察ができたなというふうに思います。

新しいスタートとして、これから実証実験、秋に始まりますけれども、日本の法規制もぶっ壊さなければいけない話ですもんね。やっていかなければいけないんですけれども、ぜひ注目していただきたいなと思います。

全部カメラに撮ってあって、これから広報課がコンパクトにまとめて映像として、記者の皆さんにも提供していきたいと思いますので、ぜひ取材をしていただきたいなということもお願いをいたします。

それでは、今日の話題に入りますが、話題が3件のうち2件はすでに8月の29日の木曜日に当局からレク済みだというふうに聞いておりますので、私の口からはそれをなぞるような形の説明になりますけれども、コンパクトに今日はお伝えしたいと思います。

一つ目は、令和元年度の9月補正予算の概要についてです。今回の議会に提出する補正予算の規模は、一般会計が約21億1,000万円、企業会計が約11億8,000万円、総額では、約32億

9,000万円の増額となりました。他に債務負担行為として約272億5,000万円を計上しております。選挙の時に私は、今後4年間は経済の活性化を第一の目標にすると。そのためには公共投資をする、それを呼び水にして民間の投資を喚起し、それが雇用の確保だったり、人の賑わいだったり、経済の活性化に結び付けていくんだと。そんなことを訴えましたけども、それを体現した補正予算案に仕上がったなというふうに実感をしております。

これもすでに皆さんのところに行っていると思いますけども、補正予算のポイントの①の資料ですね。ご参照するまでもないとは思いますが、今回、2本の柱、これは5大構想の推進と安心・安全なまちづくりという2点であります。

まず、一つ目の5大構想の推進については、海洋文化の拠点づくり。おかげさまで、清水港開港120周年、成功裏に終わることができました。これを起爆剤にして、スタートにしてこれから静岡のまちづくりを着々と進めていくというバイブルがこのグランドデザインであります。これもお手元には行っているのかな、広報課長。行ってるんですね、行ってるね。これがバイブルだというふうにご理解をいただきたいと思います。これも仕掛けて、2年かけて公民連携で作ったものであります。2040年、今から20年先を見据えた今後の清水の活性化の処方箋になるわけでありましてけれども、これに向けてそれぞれの立場、市や県や経済界や民間、それがそれぞれ、このバイブルに従ってやっていくということでありまして。

このリーディングプロジェクトが、この中では①と②に位置付けられている清水駅東口・江尻地区、そして、日の出・巴川河口地区の開発であり、その中核である公共投資こそが、新しい清水庁舎と海洋・地球総合ミュージアムです。今回の補正予算では、それぞれの整備、15年間管理運営する債務負担行為を計上いたしました。

清水のまちの活性化のために、着実に事業を進めてまいります。

さらに、今度は静岡都心に目を向けますと、歴史文化の拠点づくりですね。これは後ほど2番目の案件になるわけではありますけれども、7月の会見で発表した戦国末期の『駿府のまち』、道と石垣について、これを保存し、歴史文化施設の一部として活かしていくという決定をしました。

今回の補正予算では、その再設計費用や現状保存のための費用を計上しております。これが一つ目の柱の5大構想であります。

二つ目のキーワードは、安心・安全なまちづくりであり、まず、その一つ目、ポイント4つありますけれども、一つ目は、未就学児等の交通安全対策です。

今年5月の滋賀県大津市で発生した交通事故などを受け、未就学児の安全対策が急務となっております。すでに小学校や中学時においては、通学路の安全対策を平成24年度から進めておりますが、さらにこども園や幼稚園などの周辺での交通事故を防止するため、交通環境の改善を進めていきます。

二つ目は、保健医療・福祉の充実です。4月に、議会の発議により制定された静岡市のがん対策の推進条例。これに基づいて、がんを罹っても地域でいきいき自分らしく暮らせる静岡市の実現に向けて、医療用補整具の購入に対する助成の経費を計上してあります。

また、高齢者の皆さんが利用される施設の防災対策を推進するために、非常用自家発電設備を整

備する、その補助、助成金を計上しております。

三つ目のポイントは、土壌汚染・有害物質の対策であります。清水区、旧清水斎場の火葬棟の解体の時に発見された油汚染土壌の調査や、旧清水清掃工場の解体工事に伴うアスベスト、ダイオキシンの飛散防止対策に要する経費を計上しています。

最後に、四つ目は災害復旧です。5月の下旬の豪雨、7月末の台風6号によって被害を受けた道路や林道などの復旧に対する経費を計上しております。

以上、この安心・安全な環境整備というのが、二つ目の柱、4つのポイントであります。

この他にも、昨年、KEIRINグランプリを初めて静岡競輪場で開催をしましたが、それに続いたGIレース、来年の5月、日本選手権競輪を行います。KEIRINグランプリの売上は、昨年、3日間で約113億円を記録するという、とてもインパクトのあるレースの開催でありました。来年の日本選手権競輪でも、これを上回る130億円を売上の目標にしたいと思っています。

KEIRINグランプリの開催というのは、シティプロモーションにも貢献をいたします。さらには、競輪界全体のイメージアップのために、全国の主要都市でのCMの放映や電車の中での広告など、広報宣伝に要する債務負担行為も計上しました。

以上、これらの結果、補正予算額を合わせて、今年度予算額の累計は、一般会計が約3,223億円で、特別会計及び企業会計を合わせた総額では約6,290億円となりました。以上が補正予算についてであります。

二つ目、戦国末期の駿府のまちが歴史文化施設とともによみがえりますというタイトルでの発表でありますけども、第2弾であります。これも7月に発表した第2弾であります。

旧青葉小学校のところに、歴史文化施設ができるわけですけど、これ、点としてではないんですね。5大構想における歴史文化拠点づくりっていうのは、面として駿府城公園地区全体を、さらには静岡浅間神社から臨濟寺、ここも包み込んだ上で求心力を高める、そんな地区にしていきたいというのが5大構想であります。

駿府城周辺のエリアが静岡市の歴史文化の価値と魅力を内外に発信し、にぎわいと豊かさを創出する求心力のあるフィールドとなるために、この歴史文化施設は最初のワンピースとなるわけでありまして。市民の皆さんが子どもから大人まで誰でもいつでも静岡の歴史について学び、そして憩いの場として親しまれる歴史文化施設でなくてはなりません。そして、観光客の皆さんもここへ来れば静岡市のことが堪能できた、よく理解できたという場所にしていかなければいけません。先月の静岡新聞SBSグループが総力を挙げて実施をした2年前のフェスタ静岡のレガシーを受け継いだ駿府城夏祭り「水祭」、これも静岡市行政下支えさせていただきましたけれども、大盛況で終わった事を大変心強く思っています。

その売りものの一つが葵舟の運航だったんですね。堀のところ一周ある葵舟がゆらゆら、これ強気の料金設定で、実証実験のときは無料でやったわけですけども、今回1,500円取ったんですけども、満員御礼でずいぶん好評だったということでありますが、いかがだったでしょうか。これから、これも民間事業者に委ねる形に持っていくわけですけども、面としてこの歴史文化拠点が観光客の皆さんにも、静岡の歴史を堪能してくださる場所になってもらうことを期待しております。

さて、計画をしていた歴史文化施設を横断する位置で見つかった遺構は 400 年以上の時を経て、私たちの前に姿を現しました。歴史文化施設の一部として本物が持つ迫力を感じられるような活用をしていくために、施設の建設計画の見直しが必要となってきます。この見直しに伴い、新たに必要になることは次の2点です。

第1は遺構そのものの劣化を防止するための保存処理です。遺構は地表に現れた時点から雨風にさらされるために劣化が始まります。そのため石垣や土壌の亀裂の補修など、見せていくために必要な保存の処理を行います。

2点目は建築と展示の設計についてです。全長 30 メートル、幅約3メートルにも渡る大きな遺構を歴史文化施設の一部として活用していくために、これまで進めてきた基本的なコンセプトは変えずに、それぞれの部屋の配置計画の見直しや、遺構の効果的な展示方法の検討を行い、改めて具体的な設計を行います。スケジュールにつきましては、これまで今年度内に工事に着手し、令和3年秋の開館を目指していましたが、今回の遺構の発見、設計の見直しにより歴史文化施設の開館は令和4年の秋以降になる見込みであります。

しかしながら、この戦国末期の道と石垣の遺構が歴史文化のまちづくりの一つのシンボルとして、より強力な魅力を持って令和4年度に皆さんの前に再び登場する姿にぜひご期待いただきたいと思えます。足早に発表いたしました、私からは以上です。

三つ目、これはレク無しですので、少し丁寧に説明をしたいと思います。昭和の桜橋から令和の桜橋へ、架け替え工事本格始動という点であります。この桜橋は、清水区の国道1号と国道 150 号を南北に結ぶ中心的な場所にありますが、昭和6年の建設当初は国道1号と清水港をつなぐ目的の橋でありました。また、この周辺の地域は、さくらももこさんが幼少の思い出をエッセイで語っているゆかりの場所でもあります。エッセイの中にさくらももこさんが、線路の橋の上から素早く動く太い生物を見たというツチノコ騒動全盛期の文書、体験談を綴っておりますが、さくらももこさんが愛したまち、その記憶の片隅にきっと当時の桜橋もあったのだと思えます。

もとより、この桜橋は物資の運搬や港への車での通勤、静岡鉄道桜橋駅での乗り降り、高校生の自転車通学など、清水区の皆さんの生活に密着し、さらには交通ネットワークの要となっていました。しかし、近年は老朽化が進み、架け替えの必要性が高まっていました。そこで、約6年の歳月と総事業費約 36 億円をかけ、架け替えを行うことを決めました。今秋の本格始動は 10 月。完成は令和7年の3月を予定しております。最新のストラット工法という工法を採用し、橋の土台がとても小型化できて、工事期間中の車両の通行帯も確保しておりますので、その工事中の不便を最小限にしていきたいと思っております。

また、鉄道をまたぐ橋の架け替えですので、ポイントが2つあります。1つは、とりもなおさず防災の面で強靱な橋にすること。

2つ目は、ユニバーサルデザインを意識すること。段差の解消や自転車置き場へのアクセスの改善など、安全快適に利用してもらえらる取り組みを進めることであります。ここで、現場のドローン映像を交えたVTRを担当の職員の案内で、解説でお見せをしたいと思います。準備万端ですね。

【司会】

それでは、私の方から紹介をさせていただきます。皆さま方、ドボジョという言葉はご承知かと思えます。土木系女子。今、静岡市役所では土木系職員全体で 460 人を超えております。その中で土木系女性職員、ドボジョ 24 人おります。今日はそのドボジョの中から清水道路整備課の職員に来ていただきましたのでお願いしたいと思います。ではどうぞ。

【清水道路整備職員】

ご紹介いただきました清水道路課です。市役所入庁5年目、清水道路整備課は1年目となります。本市では、私のような土木技術職の女性職員をドボジョと呼んでおります。本日はですね、桜橋の架け替え工事の概要をお伝えすることで、我々ドボジョの存在をさらに知っていただけるように、こちらの説明の場に立たせていただきました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

皆様、画面の方をご覧ください。剣道入江富士見線にある桜橋は、静岡鉄道桜橋駅に近接し、JR東海道本線と静岡鉄道をまたぐ橋梁となっております。北側は国道1号につながり、南側は県道駒越富士見線を介して国道 150 号へとつながる道路で、清水区内を南北に結ぶ緊急輸送路にも指定されております。また、桜橋は交差点の付近に位置しており、交差する道路は通称南幹線となります。いずれの道路も、1日当たり約2万台の交通量があり、清水区内の幹線道路が交わる付近に架設されております。工事はこのように、車両の通行を確保しながら分割施工で行います。南幹線の規制も含め、初めに西側の判断面に着手し、完成後東側の判断面に移行いたします。全体の完成は約6年後の令和7年3月の予定です。

この架け替えで、桜橋は南海トラフなどの大規模地震にも耐える強靱な橋に生まれ変わります。また、段差の解消や自転車置き場へのアクセスの改善などの取り組みを進めることも含め、これから清水区の皆様の生活を支え続けていきます。ありがとうございました。

【市長】

どうもありがとう。グッドジョブです。聞くとところによるとね、すいぶん、市政記者クラブの記者さんの前でね、このプレゼンテーションするというのは緊張するものだそうですよ。5年目の職員にとっては、すいぶん準備を重ねてこの映像をつくり、今のプレゼンテーションがありました。

私どもとすると女性職員の活用、SDGsのジェンダー・イコーリティに向けて、こういうふうな場数といいますか、舞台をたくさん作って行って、理系の技術系の女子職員を背中から押していきたいというふうに思いますので、どうぞこれからもご指導よろしくお願いをいたします。

彼女達の活躍で、7年後、桜橋が首尾よく市民の皆さんに提供することを私も夢見ております。以上、清水区では中部横断自動車道の開通、そこから清水港までを結ぶ清水富士宮線のバイパスの整備、さらには国道1号バイパスの清水立体化、道路ネットワークが着々と構築されていきます。どうぞ、昭和の桜橋から令和の桜橋へ、また取材方お願いを申し上げ、私の会見としたいと思います。ありがとうございました。

【司会】

それでは、ただいまの発表項目につきましてご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は社名をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。はい、NHKさんどうぞ。

【NHK】

補正予算について3点ほど伺いたいのですが、1つ1つ伺います。

まず、海洋文化施設と清水庁舎なのですけれども、これは清水区でこれだけ大きな事業が債務負担行為で15年間のPFIでの一括管理も含めて出される、同じようなスケジュール感で、同じタイミングでの意義について、ちなみに財政課と海洋文化都市推進本部とアセットマネジメント推進課には聞いたんですけれども、それぞれに別々に行っていた事業でスケジュールが一致しただけですという回答が担当からあったんですけれども、市長からこの2つについて大きな括りでの考えもあるかと思しますので、そのあたりの意義についてもう少しお言葉をいただきたいのですが、それをお願いします。

【市長】

はい。非常に根幹的な質問だと思います。

先ほど申し上げたとおり、三期目の4年間で、経済の活性化ということに力を入れていくぞ、という私のマニフェストに基づいた投資であります。次元を交流人口の増加・高齢化社会の対応、という2つに絞っておりますので、そのためにこれからの清水・静岡の発展に欠くことができない投資だという理解をしていただければと思います。以上です。

【NHK】

ありがとうございます。もう一つが交通安全対策なんですけれども、これ当事者である大津市は、同じ9月議会で9億円ほどを計上してガードレールの設置の予算を出しているんですけれども、静岡市としては、このポールと色塗りだけでいいのか。これは物理的に暴走で突っ込んでくる車を、これで防げるのかというのはどうしても大津と比べると気になってしまうんですが、そのあたりの考え方をお願いします。

【市長】

おっしゃる通りですね。そこに私たちトップも意識を使いました。美濃部副市長が担当ですので、後程少し実務的にお答えをしたいと思いますけれども、とにかくの市民の皆さんの、そこに対する関心度も急速に高まっているのは、全国でいろいろな残念な事故が起こっているからであります。先日、私も市PTAの連絡協議会の、PTA会長さんたちの代表の集まりに行ったんですけれども、通学路の安全・安心の確保、これを今年はお願したいと。去年はエアコン一色だったんですけど、今年も通学路一色でした。そういった意味でもスピード感をもって対応するために、国のメニューもあることから、タイミングよく補正をしていこうというのが今回の私の想いでありまして。

美濃部副市長、そこらへんの説明をお願いします。

【美濃部副市長】

代表の写真として色塗りが出ていますけども、道路の幅に応じてね、いろんな工事をやっていくということです。それで静岡は大津に比べて、狭い道がこういう未就学児の利用するところが多いので、いろんな工法の違いはあると思いますけども、大きい交差点の突っ込み防止はですね、今まであんまり検討してなかったんで、別途今年度、発注をしてですね、検討しておりまして、来年度以降はそういうところにも取り組んでいきたいと考えております。以上です。

【NHK】

ありがとうございます。

最後にもう一つ競輪についてなんですけれども、これちょっと違う観点の質問ですが、IRでギャンブルのあり方がいろいろ議論される中で、公営ギャンブルやパチンコについても、議論が飛び火している面がこの数年あるのですけれども、私もギャンブル依存症の家族会の方などからですね、自治体が、特に子どもに競輪や競馬を親しみやすくアピールすることに対して、なかなか理解しがたい、見識を疑うというような厳しい批判の声を聞くことがあるのですが、そうした中で市が競輪をシティプロモーションと全体のイメージアップのためということで、130億円の売り上げを掲げて、この資料にあるように、子どもにゆるキャラを持ってアピールすると。これなかなか依存症当事者家族からは理解しがたい、理解されづらいアピールの仕方だと思うんですが、そのあたり市長はこういったことをどう考えていらっしゃるか、お考えをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】

昨年、グランプリの開催準備をする時に、私が一番は強調したことは競輪のスポーツ性を強調してほしい、子どもたちにとって競輪のアスリートがエスパルスの選手のように憧れの存在になる。これは競輪選手にとっても、すごく動機づけになりますし、大事なことであります。

単なるギャンブルの対象として競輪を見ないでほしい。あのダイナミックな競輪の現場、競輪場に行かないと伝わってこない、その臨場感というものを、ぜひスポーツとして見てほしいということをぜひふん呼び掛けました。なので、特定のギャンブルだけでしか競輪を見ないという形ではなくて、広範な親子連れであるとか、女性であるとか、カップルであるとか、そういう方々に広く静岡競輪場を知っていただき、そして来場していただき、そして楽しんでいただきたいと。そんな呼びかけをしております。

そういう中で例えば吉本をさんとコラボレーションをしたり、ゆるキャラを活用したり、家族連れで楽しめるよう、そんな場所にもしておりますし、そういう「特観」と言いますが、席も用意をして、そして改装費用も出しました。日本の競輪場全体の中で、そういう敷居の低い競輪をするには、静岡競輪場が一番トップランナーに位置しているというふうに、経産省からもお墨付きをもらっております。

そういう中で健全性を維持して、そしてスポーツとしての競輪の魅力を知っていただき、そしてひいては、この温暖な気候の中で雪が降らない坂が少ない風が吹かない、自転車を交通手段として利用するにはとても優れた地形を持っている、自転車先進都市なんだと。そんなことともコラボレーションして繋げていきたいなというふうに私は願っております。

【司会】

他にいかがでしょうか。
中日新聞さん。

【中日新聞】

予算の債務負担行為の、海洋文化施設の収益性についてお伺いしたいんですが、先日清水のマリナートが300万人達成という取材に伺いまして、たいへん稼働率が高く、たいへん多くの方がいらっしやっているというふうに伺いました。
ここの海洋文化施設は、博物館と研究施設も兼ね備えるというふうに伺っていますが、約170億円という、これだけ大きなお金の中で収益性と周辺への経済効果について、どのようにお考えになっているかを教えていただければと思います。

【市長】

15年間でこのぐらいの投資をするということも、呼び水となって民間投資を呼び込んだり、交流人口の増加につながったりというような流れを作っていくのが、今回の私どもの想いであります。ここに尽きるので、例えば南側の石造り倉庫群、いわゆる倉庫としての機能は新興津の方に移動して空いているところも多いですね。海洋文化施設への求心力が高まったら、お客さんが増えて滞留人口が多くなれば、よし、ここを民間投資していこうと。ちょうど30年前に、横浜市のみなとみらい計画で赤レンガの倉庫群のリノベを促していった、民間投資を喚起していったと。それと同じ手法ですね。倉庫群のリノベが進んでいくようなきっかけになると。こういうふうに期待をしています。
そういう提案が企業の方からもあります。そうすればウォーターフロントですので、海風を感じながら、美味しいおしゃれなシーフードレストランができてよし、あるいは近隣住宅がありませんので、若者が集うライブハウスやクラブがあってもいいし、そういうウォーターフロントへの商業施設のきっかけにもなっていくというふうに思います。
そういう流れの中で、経済の波及効果、それは雇用の確保にも繋がっていきますので、そんなふうなことを機として今回まずは公共投資していこうということです。

【司会】

他にいかがでしょうか。
よろしいですか。はい、ありがとうございます。それで幹事社質問に移りたいと思いますので、幹事社さん、よろしくお願いいたします。

【共同通信】

8月 22 日に、静岡市の市役所清水庁舎の移転をめぐり、市民団体が移転の賛否を問うための住民投票を求める要望書を市長に提出しました。1日が回答期限だったが、これどういうふうに対応されるお考えかお伺いしたいと思います。

【市長】

1日、昨日は日曜日だったので、今日、市長発議の住民投票は行いませんという回答をさせていただきました。

その理由は、まず今年4月の静岡市長選挙における市長マニフェストにおいて、新たなまちのシンボルとなる新清水庁舎の整備を掲げ、そのマニフェストを踏まえた選挙において、おかげさまで信任を受けたと考えております。

また、市民との対話については新清水庁舎の建設を含めた清水のまちづくりについて、様々な機会を通じて、経済団体、市民団体などに対して直接説明を行うとともに、当該事業に関心を持たれている市民の皆さんとは、担当職員による意見交換によりコミュニケーションを図っております。

さらに、新清水庁舎の機能や役割について、特に防災面の心配があるということも8団体の方々から伺っておりますので、7月号から9月号にかけて広報しずおかで、かなり紙面を割いて特集をしております。特に9月は防災月間ですので御覧になりましたでしょうか、2ページ目に「攻めの防災拠点」として清水の庁舎を使っていくんだというようなわかりやすい説明を記事として掲載をしておりますので、そのような形で、SNSも使いながら情報発信をしていきたいなと思っております。

私自身、清水区内でこのことを聞かれる場合が多いので、その都度説明をするのですがけれども、説明をすればね、なるほどそういうことだったのかと、知らなかったということで、納得をしてもらえる実感というか手ごたえを感じております。ですので、やはり私自身も情報発信をしていきますし、市の職員も様々な機会を通じて、先ほどのグランドデザイン、大きな清水のまちづくりに向けて欠くことのできないワンピースなんだというように、報道いただければ大変うれしいなというふうに思います。住民投票、多額の費用も掛かります。億を超える額もかかりますので、ここは市民の代表たる市議会議員の皆さんも関心を持っているテーマでもありますので、9月の定例議会できちっと議論を深めていきたいと思っております。

【共同通信】

ありがとうございます。幹事社からは以上です。各社さんからご質問お願いします

【司会】

静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

今の質問に関連してなんですけれども、今回この住民投票を要望したグループ、複数にわたると思いますが、こうしたグループの言い分としましてですね、反対や不安、疑問の声に耳を傾ける姿勢が全く感じられないということで、説明もこれまで何度もしてきたというふうに、市長からもおっしゃられていますけれども、反対するグループということなのか、そういったところに市長はまだ一度も、まだ姿を見せていないではないかという声も上がっています。こういった声についてはどんなふうにお考えでしょうか。

【市長】

これは、8団体の皆さんと調整をもう一度、所管の職員にするように指示をしております。そのあたりのところから、大所高所から見てね、清水のグランドデザインでこれが必要なんだという説明は、こういう媒体でご理解いただければなというふうに思っております。

2年前に、そういう声があったということを知った上で、清水区を皮切りにタウンミーティングをやったわけですね。しかし、なかなか説明を聞いてもらえるような場にならなかったということが残念であります。どういう風にそうではない落ち着いた環境の中で、あるいは私が説明するよりも、こういう媒体で職員がいろんな手法でね、いろいろ8団体の方々にも納得してもらえるような努力はしていきたいと思っております。

【静岡朝日テレビ】

関連してですね、市長発議の住民投票は行いませんということですが、例えば、今後ですね、またそういうことであれば署名を今度集めていきたいというようなお話を反対グループの皆さん、されていると思います。もし、これで規定となる一定の署名数が集まると、またこう事態が、情勢が変わってきた場合を想定したときにですね、市長としてはどんなふうを受け止めるか、どんな風に考えるか教えていただきたいと思います。

【市長】

記者と同じだと思いますけれどもね、市長の立場とすると清水の全体を考えていかななくては行けない。あるいは清水の10年後、20年度を考えていかななくてはならない、そんなことで清水の活性化を考えると私の任期は4年しかない。もう待たないなんです、清水の活性化はね。

とにかく清水の活性化、とにかく中心市街地がシャッター通りになって困っている、あるいは清水が合併をしてもメリットがないという方々もまだまだ声が聞こえてくる。ですから何とかして清水を海洋文化拠点として、あるいは高齢化社会に対応するコンパクトな街として、処方箋を書いた医書を実現していかななくては行けないというのが、これからの総合的な見地からの私の市長として課せられた思いなんです。その心配の気持ち、懸念は十分わかるんですけれども、ぜひそういう中で清水の活性化のために、ぜひご理解をいただきたいというふうに記者からも情報発信していただければ、ありがたいなというふうに思います。

【静岡朝日テレビ】

はい、ありがとうございました。

【静岡朝日テレビ】

2点お伺いしたいんですけれども、まず1点目、さきほど市長の反対住民の方々の日程の調整をするというご発言ありましたけれども、今後、市長が直接反対住民の方々とお会いになる意向があるということでしょうか。

【市長】

統括監が所管で8団体の方々ともかなりコミュニケーションを交わしております。

私自身、8団体の方々が、あそこの移転は了解だよと、じゃどういう折り合いをつけようというようなことになればね、私の出番もあるのではないかと考えておりますが、統括監そのあたりのところを補足をお願いします

【公共資産統括監】

今の8団体との面談のことについてはですね、ここのところで住民投票の要望とかいろいろ出てきてまして、それまでは団体の方とちょっとお会いしていたんですけれども、ここのところ向こうの方の活動も忙しくなったりする中でですね、最近ちょっと会えていないですから、また今日、回答した以降ですね、団体の方が今どんなことを考えていらっしゃるのか、日程調整ということではなくてですね、今希望されていること、住民投票ということは承知しているんですけれども、それ以外に今どういう状況であるのかということをお聞きしたいという意味の調整ということでご理解いただければと思います。

【静岡朝日テレビ】

そうしましたら市長、今、現状の団体の方々の姿勢では、市長が出られることはないということなので、団体の方々が容認、清水庁舎移転の容認に転じない限り会わないということでしょうか。

【市長】

容認というか、歩み寄っていただけるような余地があれば、私が行く意味が出てくると思います。

【静岡朝日テレビ】

現状では、会う意向はないということですか。

【市長】

はい。

【静岡朝日テレビ】

もう一点だけ。先ほど市長選の結果でマニフェスト信任を受けたというお話ありましたけれども、反対団体の方々は清水区の投票結果のことを重視していて、その点を見ると、清水庁舎移転が信任を受けていないのではないかという見方をされているわけですね。その点に関しては、市長どようにご説明されますか。

【市長】

私自身、その点はとつても反省をしております。伝えたつもりが伝わっていなかったという結果が選挙の得票に清水区においては現れたという風に思っています。ですから勝つには勝たせてもらいましたけれどもね、これに対する心配の気持ちがあるんだなということは痛感をしましたし、伝わっていなかったと。これはたびたび記者会見でも申し上げましたけれども、伝えると伝わるは大きな違いがあるんですね。市は伝えたつもりだけど市民の皆さんには伝わっていなかったというのが、この選挙結果であるのならば、もっともつと伝わる努力をしていかななくてはならない。

フラットな方々が、先ほども申し上げましたが、自分自身が伝えれば、あ、なるほど知らなかったよ市長、早く言ってくれよ、それだったらそうだよねと。清水の活性化しなくてはいけないもんねとご理解いただけるんですね。

これも攻めの防災拠点なんだよと、庁舎はね、いざとなつたら津波避難タワーと同じような機能を果たせるんだよということだったら、あ、なるほどねと。あるいは県と一緒に面としての防潮堤を作った中で、安心・安全な清水の中心市街地全体が想定域ですのでね、やってくんだよということを引きつと伝えればわかっていたらというふうには思っていますのでね、このところは今回の選挙の結果を謙虚に受け止めて、情報発信をする努力をしていきたいなと思っております。

メディアの皆さんもそのあたりを大所高所の見地から、情報発信をしていただければ嬉しいなと思います。

【静岡朝日テレビ】

すみません、もう一点だけ。先月ですね、いったん市長と反対団体の方々がお会いになる機会があったと反対団体から伺っております。それがキャンセルになって今に至るということですがけれども、その経緯ですね、いったんキャンセルになったのであれば、延期という形で再度調整されるべきではないかと反対団体の方おっしゃっていますけれども、そのあたりの経緯と、今後、再調整しなかった理由を教えてくださいませんか。

【市長】

そのあたりのこと、先ほど統括監が伝えたことだろうというふうに思いますけれどもいかがでしょうか。

【公共資産統括監】

面談のキャンセルについては、市長日程の調整が見つからないということで、キャンセルをさせていた

だいております。今後のことについては、先ほど申し上げたように、8団体の方々が引き続き面談を希望されているのかどうなのか、新しい住民投票の要望を出されているものですから、その確認が取れてないものですから、また改めて、それも含めて、我々レベルで8団体の方々とお会いして意向を確認したいという、そういう意味での調整です。

【静岡朝日テレビ】

わかりました、ありがとうございます。

【司会】

お時間のほうがだいぶ予定になりましたが、他にもございますでしょうか。よろしいですか、はい、ありがとうございます。

それではですね、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は9月 19 日木曜日の午前 11 時からとなりますのでよろしくお願いいいたします。本日はありがとうございました。